

# オノエヤナギ

*Salix sachalinensis*

ヤナギ科



オノエヤナギ

## 名前の由来

「オノエ」は峰の上（おのえ）で、四国や本州では高い山に生えることから付けられたという。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいためイヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことからヤナ木。④柔萎木（やわなぎ）の意。などといわれている。さらに漢字の「柳」はシダレヤナギなどを指し、他のヤナギは「楊」にあたるともいう。漢字名：尾上柳

## 形態的特徴

樹高10～15m。25mあるいは30mになるものもあるという。葉は披針形または狭長楕円形、長さ8～16cm、全縁か、不明の波状鋸歯、ふちは裏面に巻き込む、互生。雌雄異株。花は、雄花序の葯は淡橙黄色、雌花序は黄緑色で長さ2～4cm。5月葉より先に開花。果実は、果序の長さ4cmで6月に成熟。

**類似種との見分け方：**オノエヤナギの葉には鋸歯があるが波状で緩やかであり、また淵が裏面に巻き込む。また、オノエヤナギは若葉のうちは裏面に毛があるが、後にほとんど無毛となる。一方、エゾノキヌヤナギの葉の裏には密生した絹毛がずっとある



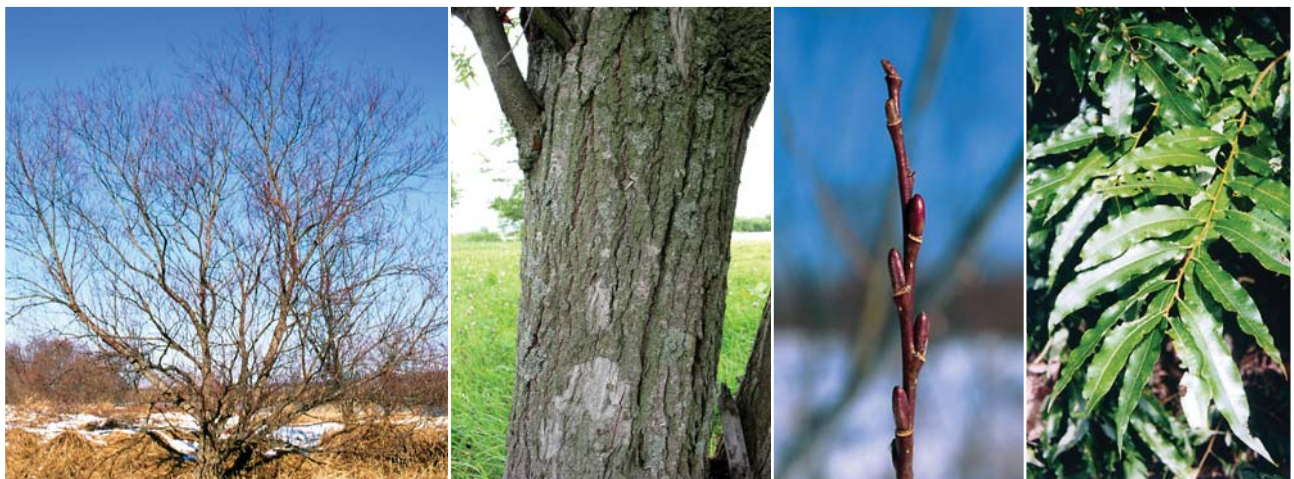
オノエヤナギの雄花

オノエヤナギの雌花

オノエヤナギの実

オノエヤナギの実が開き綿毛と種が出る

オノエヤナギの葉。ギザギザは緩やかで波状。若葉以外に毛はなくなる



オノエヤナギの樹形

オノエヤナギの樹皮

オノエヤナギの冬芽

オノエヤナギの枝先の葉

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

原野、湿地や河岸（水流沿いを主体に、崩壊跡地、道路法面、明るい林縁などにも）

分布：国外分布は、千島、樺太など。国内分布は、北海道、

本州、四国。北海道内分布は、河畔を中心に低地から中山・亜高山帯まで広く分布。

十勝地方生育状況は、湿地や河岸でふつうに見られる。

## 繁殖生態・寿命

5月葉より先に開花。蜜腺を持つ虫媒花。果実は、果序の長さ4cmで6月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛が

つき、風散布される。その距離は数100mから数10kmにまで達するという。寿命は不明。

## 他生物との関わり

コムラサキやヒオドシチョウの幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。



コムラサキ。  
幼虫時オノエヤナギなどのヤナギ類を食樹とする

## 植栽関係

枝挿し増殖によって簡単に増殖でき、挿し木（埋枝）も極めて有効である。一般的にヤナギの挿し木には、直径1～3cm（枝齢2～5年生）でまっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を

開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当である。なおクロボク土といわれる黒土を客土してはならないという。

## 興味深い話

■特に河畔において、最も一般的に見られる樹で、何ヤナギかわからない時に、「とりあえずオノエヤナギ」といってもいいとさえ言われる。

■護岸用に用いられる。

■別名「カラフトヤナギ」というが、これは樺太（サハリン）に生えるからだという。他にナガバヤナギ（長葉柳）ともいう。

■十勝地方のアイヌ語で「スス」という。

■アイヌ文化では神の儀式に用いるイナウ（木幣）の原料とされる。ヤナギはまたサケの頭を叩く棒（イバキクニ）としても用いられた。

■秋早くオノエヤナギの細い葉が黄ばんでくると、ぼろぼろとこぼれるように散り尽くすが、そのころ、シシャモが群をなして川を遡ってくる。シシャモ（柳葉魚）はアイヌ

語でススハムといい、「シシャモ」の語源だともいう。

■〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあり、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定するとより良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。

## 配慮事項

特になし。

### 参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990  
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992  
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991  
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978  
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道登山協会 2001

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996  
「改訂増補 牧野 新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
「生育環境別 日本野性植物館」奥田重俊 編著 小学館 1997  
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994  
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類